

一橋大学

2014 オープンキャンパス

■ 商学部 ■ 経済学部 ■ 法学部 ■ 社会学部

2014.8.1 [金]

一橋大学キャンパスマップ



保健センター

《体調が悪くなった》場合は

気軽に **一橋大学** の腕章を着けた係の者にお申し出ください。
 また、**保健センター**では、応急的な看護をいたしますので、
 何かあった際には、ご遠慮なくお越しください。

- | | |
|-------------|----------------|
| ① 西正門 | ⑦ 東正門 |
| ② 兼松講堂 | ⑧ 東1号館 |
| ③ 本館 | ⑨ 東2号館 |
| ④ 附属図書館 | ⑩ 東プラザ (食堂) |
| ⑤ 保健センター | ⑪ キャンパスツアー集合場所 |
| ⑥ 西プラザ (食堂) | ⑫ マーキュリータワー |

●西キャンパス



●東キャンパス



保健センター

目次

一橋大学「2014オープンキャンパス」タイムスケジュール	1
イベントスケジュール・プログラム	2-3
各イベント開催場所	4-6
西キャンパス 兼松講堂案内図	4
西キャンパス 本館案内図	4
西キャンパス 附属図書館案内図	5
東キャンパス 東1号館案内図	5
東キャンパス 東2号館案内図	6
西プラザ・東プラザ案内図	6
一橋大学オープンキャンパスにおける主な Q&A	7-17

一橋大学「2014オープンキャンパス」タイムスケジュール

※ ○数字は表紙裏の「一橋大学キャンパスマップ」の数字に対応しています。

		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00		
西キャンパス 開催場所	西正門 ①	第1部受付			第2部受付						第3部受付										
	兼松講堂 ②	9:00~9:30	10:00~11:20	11:20~12:20	11:50~12:20	12:50~14:10	14:10~15:10	15:40~17:00	17:00~												
	2階	第1部 大学紹介 ・学長挨拶 ・キャリア支援 ・大学概要 [映像配信]	第1部 学部説明 【法学部】 (兼松講堂)	個別質問 (兼松講堂)	第2部 大学紹介 ・学長挨拶 ・キャリア支援 ・大学概要 [映像配信]	第2部 学部説明 【法学部】 (兼松講堂)	個別質問 (兼松講堂)	第3部 大学紹介 ・学長挨拶 ・キャリア支援 ・大学概要 [映像配信]	第3部 学部説明 【法学部】 (兼松講堂)	個別質問 (兼松講堂)											
	3階	2階21番教室 3階31番教室	【商学部】 2階21番教室	(23番教室)	2階21番教室 3階31番教室	【商学部】 2階21番教室	(23番教室)	2階21番教室 3階31番教室	【経済学部】 3階31番教室	(33番教室)											
	2階	留学制度相談会 9:30~16:30 2階25番教室																			
	1階	学生生活相談コーナー (入試制度・カリキュラム・卒業後の進路・学生生活・奨学金等) 9:30~16:30 特別応接室																			
	附属図書館 ④	図書館見学 9:00~16:30 (自由見学・入館は16:00まで)																			
	西プラザ ⑥	<昼食等> 食堂 11:00~15:00 (営業時間) ショップ 10:00~16:00 パンショップ 10:00~16:00																			
	1号館 ⑧	本学学生による受験生相談会 10:30~16:30 1階1101番教室																			
	東2号館 ⑨	10:00~11:20	11:20~		12:50~14:10	14:10~		15:40~17:00	17:00~												
東プラザ ⑩	<昼食等> 食堂 11:00~14:00 (営業時間) ショップ 10:00~17:00																				
その他	映像で知る一橋大学 9:00~16:30 西キャンパス：本館2階 24番・28番教室 ③ 東キャンパス：東1号館2階 1201番・1202番教室 ⑧																				
構内 ⑪	本学学生によるキャンパスツアー 9:50~16:30 集合場所 兼松講堂東南側 (1回につき約30分)																				

イベントスケジュール・プログラム

※ ①～⑩の数字は表紙裏の「一橋大学キャンパスマップ」の数字に対応しています。

大学紹介

場所：② 西キャンパス兼松講堂

学長挨拶，副学長による大学概要及びキャリア支援について説明します。申し込みをした時間にご参加ください。

(第1部) 9:00～9:30 (第2部) 11:50～12:20 (第3部) 14:40～15:10

※映像配信実施 - ③本館 2階 21 番教室 / 3階 31 番教室

※学部説明まで、お待ちになる場合は、西キャンパス：③本館2階 24・28 番教室，3階 34・38 番教室
東キャンパス：⑧東 1 号館 2階 1201・1202 番教室 をご利用ください。

学部説明

場所：p.1「タイムスケジュール」参照

各学部に分かれて、それぞれの学部の詳しい説明や模擬講義等を行います。申し込みをした学部・時間にご参加ください。

(第1部) 10:00～11:20 (第2部) 12:50～14:10 (第3部) 15:40～17:00

学 部	内 容	備 考
商学部	①学部長挨拶 ②学部概要説明 ③ミニ・レクチャー ④学部生等によるパネル討論 ⑤質疑・応答	ミニ・レクチャー講師： 福川 裕徳 教授
経済学部	①学部長挨拶 ②カリキュラム説明 (グローバルリーダーズ・プログラム、 5年一貫教育システム等) ③パネルディスカッション	—
法学部	①学部長挨拶 ②カリキュラム概要説明 ③模擬講義 ④ゼミナール紹介	模擬講義講師： 第1部 但見 亮 准教授 (中国法) 第2部 阿部 博友 教授 (国際取引法) 第3部 青野 利彦 准教授 (国際関係史)
社会学部	①学部長挨拶 ②学部概要説明 ③模擬講義 ④Q&A	模擬講義講師： 第1部 倉田 良樹 教授 第2・3部 小井土 彰宏 教授

学部個別質問

それぞれの学部の先生方が、あなたの質問に答えます。
授業の内容や学部の特色など、疑問に思うことや不安を思い切って先生方に相談してみましょう。

(第1部) 11:20～ (第2部) 14:10～ (第3部) 17:00～

学 部	場 所	備 考
商学部	③西キャンパス 本館 2階 23 番教室	
経済学部	③西キャンパス 本館 3階 33 番教室	
法学部	②西キャンパス 兼松講堂	※個別相談では法学部教員および現役法学部生が相談員を務めます。 ご相談されたい方は説明会終了後、お残りください。
社会学部	⑨東キャンパス 東 2号館 2階 2201 番教室	(11:20～17:30) ・東キャンパス 東2号館3階2301番教室で 社会学部学生による相談会

学生生活相談コーナー (9:30 ~ 16:30)

場所：③ 西キャンパス 本館 1 階 特別応接室

入学試験や大学生活に関することを職員に対し質問することができます。入学試験の受験科目、入学後のこと(奨学金・学生寮・授業カリキュラム・就職状況等)など相談してみましょう。

なお、留学制度の相談については、本館 2 階 25 番教室で実施しています。

留学制度相談会 (9:30 ~ 16:30)

場所：③ 西キャンパス 本館 2 階 25 番教室

一橋大学海外派遣留学制度等に関する説明会や、実際に留学した在校生との交流を行います。随時相談可です。

図書館見学 (9:00 ~ 16:30) ※入館は 16:00 まで

場所：④ 西キャンパス 附属図書館

附属図書館は、随時見学することができます。自由に見学できる他、要所ごとに配置された職員に質問することができます。順路・みどころは別冊「一橋大学附属図書館ようこそ」を参照してください。(当日、附属図書館で配付します。)

本学学生によるキャンパスツアー (9:50 ~ 16:30) 集合場所：⑪ 西キャンパス 兼松講堂東南側

在学生がキャンパス内を案内します。希望者は西キャンパス兼松講堂東南側に集合してください。

※1 回につき約 30 分

本学学生による受験相談会 (10:30 ~ 16:30) 場所：⑧ 東キャンパス 東 1 号館 1 階 1101 番教室

在学生に受験勉強やその他について相談できます。

映像で知る一橋大学 (9:00 ~ 16:30)

場所：③ 西キャンパス 本館 2 階 24・28 番教室

⑧ 東キャンパス 東 1 号館 2 階 1201・1202 番教室

大学概要の紹介 DVD をリピート上映しています。また、休憩室(飲食可)としてもご利用いただけます。

休憩室 (飲食可)

休憩室として、ご自由にご利用ください。

西キャンパス：

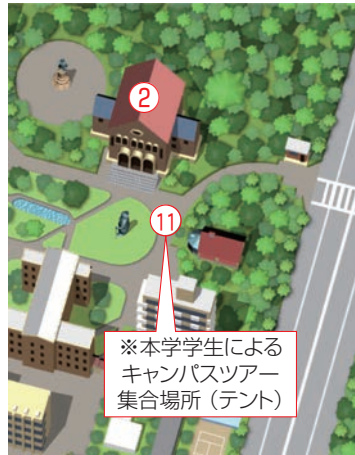
- ③ 本館 2 階 24・28 番教室
3 階 34・38 番教室

東キャンパス：

- ⑧ 東 1 号館 2 階 1201・1202 番教室



兼松講堂 - ② ⑪



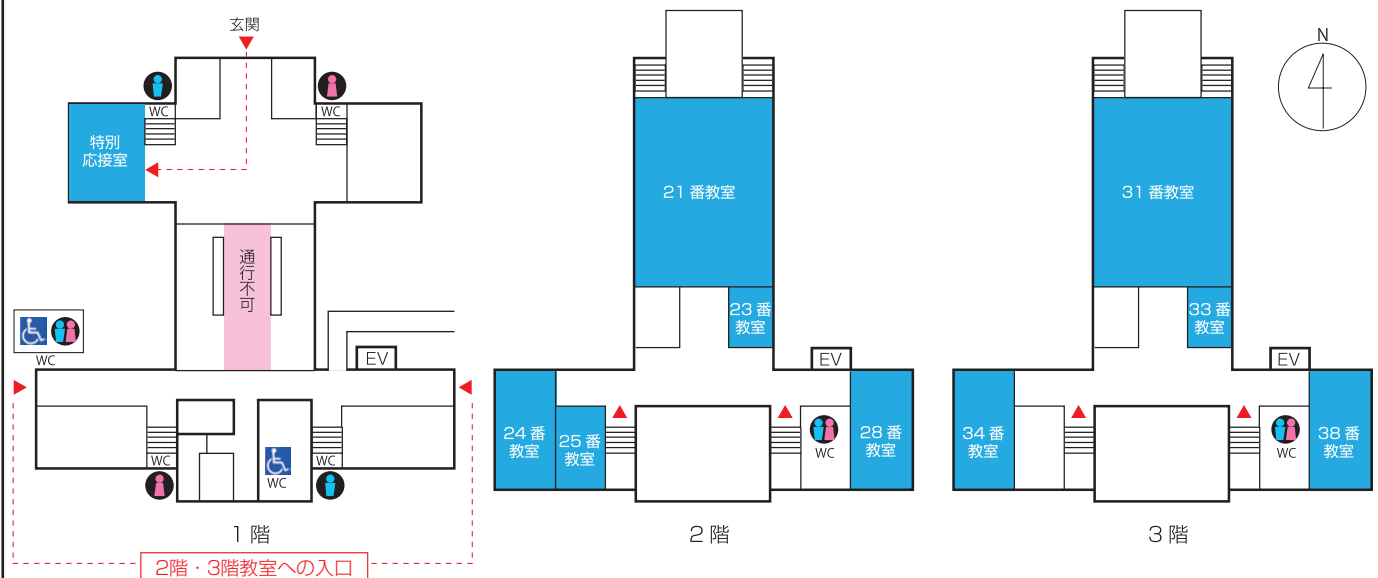
- 大学紹介
- 法学部説明
- 法学部個別質問

※ 本学学生によるキャンパスツアーへ参加を希望される方は、兼松講堂前にあるテントにお越しください。

本館 - ③



- 【1階】**
- 学生生活相談コーナー ▶ 特別応接室
- 【2階】**
- 大学紹介映像配信 ▶ 21番教室
- 商学部説明 ▶ 21番教室
- 商学部個別質問 ▶ 23番教室
- 留学制度相談会 ▶ 25番教室
- 映像で知る一橋大学 ▶ 24・28番教室
- 【3階】**
- 大学紹介映像配信 ▶ 31番教室
- 経済学部説明 ▶ 31番教室
- 経済学部個別質問 ▶ 33番教室
- 休憩室 ▶ 34・38番教室



※本館の1階と2階・3階の入口は異なりますのでご注意ください。

附属図書館 - ④



図書館見学

※詳しくは「一橋大学附属図書館によるこそ」を参照してください。
(当日、附属図書館で配付します。)



東1号館 - ⑧

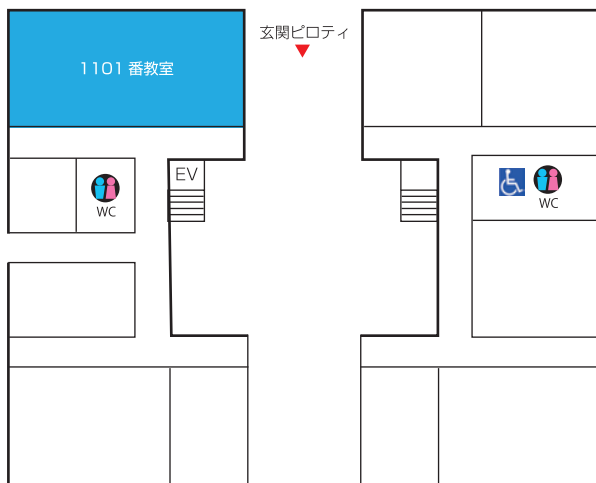


【1階】

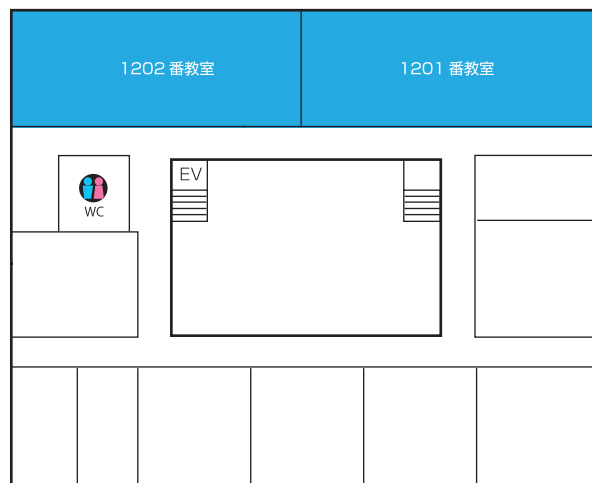
本学学生による受験生相談会 ▶ 1101番教室

【2階】

映像で知る一橋大学 ▶ 1201・1202番教室



1 階



2 階

東2号館 - ⑨



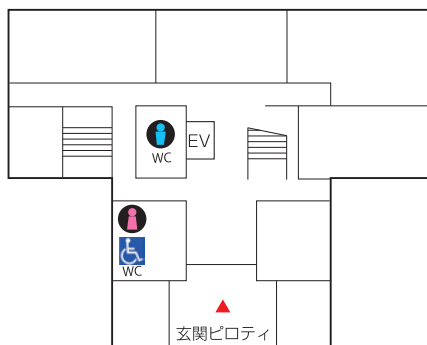
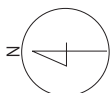
【2階】

社会学部説明 ▶ 2201番教室

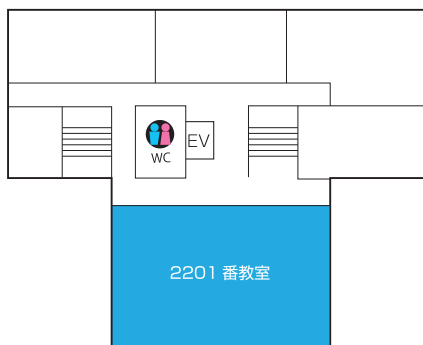
社会学部個別質問 ▶ 2201番教室

【3階】

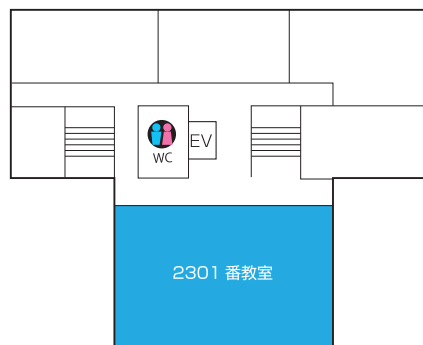
社会学部学生による相談会 ▶ 2301番教室



1階

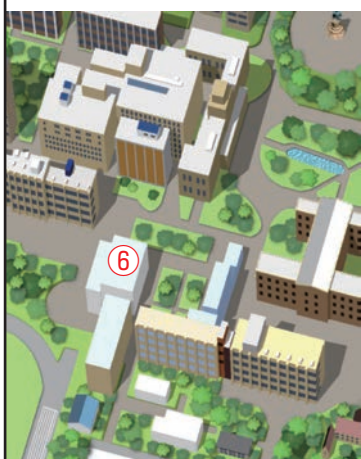


2階



3階

西プラザ - ⑥ / 東プラザ - ⑩



休憩場所として終日開放しています。
(営業時間外利用可)

⑥西プラザ (西キャンパス)

(営業時間) 食 堂 11:00~15:00
 ショップ 10:00~16:00
 バンショップ 10:00~16:00

⑩東プラザ (東キャンパス)

(営業時間) 食 堂 11:00~14:00
 ショップ 10:00~17:00

一橋大学オープンキャンパスにおける主なQ&A



商学部

Q 1：商学部では、学生は4年間通してどのような履修パターンが多いですか。

A 1：すべての学生が4年間にわたり、専門教員から少人数で学ぶことができるゼミを履修します。ゼミ以外の履修科目は、学生一人一人の興味関心によって変わってきます。一般に1年生は、語学や全学共通教育科目、それに商学部が提供する学部教育科目の中でも、より基礎的な科目（導入ゼミ、経営学概論、マーケティング概論、会計学概論、金融概論）を受講することになるでしょう。加えて PACE という講義にて週2回、英語を母国語とする教員より英語によるコミュニケーションの方法を学ぶことになります。2年生は、基礎的な科目に加えて段階的に専門的な科目を履修することになります。さらに、商学部2年生は全員が「前期ゼミ」に所属し、専門の内容を少人数で学ぶ機会が用意されています。3、4年生はゼミナールがより大きな位置づけになり、そのゼミナールでテーマとしている内容に関連する学部教育科目を選択する人が多いようです。

ご関心のある方は、商学部ウェブサイトの「商学部—商学部について—商学部で学ぶこと」(<http://www.cm.hit-u.ac.jp/undergrad/learning>) もご参照ください。

Q 2：3、4年次のゼミは専門性が高いと思いますが、どのようなゼミがありますか。ゼミの数や特色はどうか。

A 2：一橋大学学務情報システム・学生ポータル (<https://merc.as.hit-u.ac.jp/>) にゲストログインし、ゼミを検索してみてください。今年度開講されているすべてのゼミについて、担当教員の専門分野、ゼミの目的及び使用するテキストなどが詳しく説明されています。

Q 3：商学部と経済学部の違いについて具体的に教えてください。

A 3：共に「社会を理解する」ことを目標として勉強・研究を行う学部ですから、多くの共通点もありますが、いくつか相違点もあげておきます。

第1は、アプローチの違いです。商学部においては、主として「企業」にかかわる諸課題を考察することを通じて「社会」を理解しようとする傾向があるのに対して、経済学部においては、企業のみならず「様々な主体・制度」を考察することを通じて社会理解が行われる場合が多いという点です。

第2は、分析の際に用いられる基礎的原理の違いです。経済学部においては、程度の差はあれ、「経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）」の知識を基礎として社会を理解しようとする傾向がありますが、商学部においては、経済学のみならず、経営学・社会学・心理学といった幅広い知識を基礎として社会を理解しようとしています。

第3は、実学的志向の相違です。一概にはいえませんが、経済学部に比べて商学部の方が、自らの知識・理解を実践し、実用化しようとする傾向が強いかもしれません。

Q 4：商学部は、税理士、公認会計士の資格を取るのに有利ですか。またどのような企業に就職する学生が多いのですか。

A 4：商学部には、これらの資格に関連する知識を提供する講義科目があるのでプラスになることは間違いありませんが、これらの講義は資格試験に合格するために用意されたものではありません。その他の就職先については、商学部のウェブサイトの「商学部—商学部について—卒業後の進路」

(<http://www.cm.hit-u.ac.jp/undergrad/career>) をご参照ください。

Q 5：商学部に入學しても数学は学べますか。

A 5：商学部においても数学を勉強することは可能です。一橋大学においては、学部の枠に縛られることなく様々な領域の勉強してほしいとの考えから、学部教育科目以外の科目を積極的に履修することをすすめています。思う存分数学を勉強してください。

さらにいうと、商学部のどの分野を専攻するにしても、数学・統計の知識は必須です。積極的に数学を勉強してもらいたいと考えています。

その他の質問をお持ちの方、ご関心のある方はぜひ商学部ホームページ (<http://www.cm.hit-u.ac.jp>) にアクセスしてください。

経済学部

Q 1：経済学部と商学部の違いがよくわからず、志望学部を決めかねています。

A 1：経済学とは、あらゆる社会現象を、個人や企業の行動の結果としてとらえようとする学問です。社会の中の一人一人の行動が社会現象を引き起こすと考える分析手法を使って、貿易、財政、経済成長といった伝統的な対象だけではなく、教育、法規制、家族のありかたといった幅広い分野を対象として分析をしていきます。つまり経済学とは統一的な方法で社会をとらえるための方法論です。

一方で商学は企業活動の様々な側面を主な分析対象にして、社会学、心理学、経済学といった様々なアプローチで分析を進めていきます。すなわち商学とは方法論というよりはむしろ分析対象によって規定された学問だといえます。

Q 2：経済学部の魅力的な先生を紹介してください。

A 2：それぞれの学問分野で国際的な研究業績を持つ研究者がそろい、知的フロンティアの拡大に取り組むと同時に、その知識を教育や社会貢献に生かしています。

有志の先生方が高校生にもわかるように書いた文章を集めた本が一橋大学経済学部編『教養としての経済学』（有斐閣）です。研究成果の一端に触れていただければと思います。



Q3：一橋大学経済学部独特な研究分野として、どのようなものがありますか。

A3：本学部は、経済理論とその応用分野から歴史・地域研究に至るまで、多様な分野をカバーしています。経済学部のウェブサイトから、いろいろな教員のページを見てください。あなたの興味を引きそうな研究分野がきっと見つけれられるでしょう。

Q4：経済学を専門的に学ぶために、今からやっておいた方がよいことはありますか。

A4：どのような学問分野についてもいえることだと思いますが、基礎的な学習スキル（たとえば語学や数学など）を着実に身に付け、現実の社会に対する広い関心を持ち、さらに自分で問題を発見する努力を心がけることが重要です。

Q5：経済学部で取得できる資格について教えてください。

A5：経済学部で取得できる資格は、中学校教諭1種免許（社会、数学）、高等学校教諭1種免許（地理歴史、公民、数学）の教員免許です。

Q6：経済学部にはどれくらいの数学の能力が必要ですか。

A6：経済学にもいろいろな分野があり、その中には数学の能力がほとんど必要でないものもありますが、経済学全般を理解しようとする程度に数学能力は必要です。数学的な思考は、経済の仕組みを理解するのに大いに役立ちます。ただし、試験問題は出題範囲から出されますし、数学の知識自体はそれほど多くのものを必要としません。より高いレベルの勉強をすることは頭の訓練、そして入学後の学習に役立ちますが、今は出題範囲内で難しい問題に取り組んでいくべきでしょう。入学後に数学の講義を履修して勉強すれば大丈夫です。

法学部

Q1：一橋大学法学部で「これは、一橋大学ならではの」といえるものはありますか。

A1：一橋大学の法学部では、学界の第一線で活躍する一流の研究者が熱意を以って教育に取り組み、創立以来半世紀以上にわたって、様々な分野で有為の人材を多数輩出してきました。本学の法学部で学ぶ学生には、まさに無限の可能性が広がっています。

教育面でまさに「一橋大学ならではの」と誇ることができるのは、少人数のゼミ（演習）です。平均7人程度の学生が先生を囲み、専門分野について徹底的に学習・討論を行います。すべての学生がゼミに参加し、卒業論文（論文とはいえ、本になるくらいの長さの「大作」を仕上げる学生も少なくありません。）を書きます。

Q2：法学部の3年次のコース分けは、希望のみではなくて成績も考慮されるのですか。またカリキュラム等は自分で決めることができますか。

A2：成績は関係ありません。第3学年進学时に本人の希望によって「国際関係コース」と「法学コース」を自由選択できます。国際関係コースの学生も法学科目をたくさん履修できますし、逆も同様です。

この「コース」制は、他大学の法学部によくある学科（法律学科と政治学科など）制よりも、はるかに緩やかなものだと考えてください。

Q3：法学部で学びたいと思っていますが、法を学ぶにはどのような能力・考え方などが必要となりますか。

A3：法学部で法を学ぶためには、論理性、物事に対する多角的な見方、文章読解力、作文力、正義への関心などが大切です。同時に、他人の立場に立って物を考える想像力も必要です。

Q4：法学部ではどのように法律とかわっていくのかを教えてください。

A4：法学部は、学問としての法律学を学ぶ場です。法制度の仕組みを理解することももちろん重要ですが、それだけでは十分ではありません。法の基礎となっている理念を学ぶこと、社会的問題を法律を用いて解決する方法を模索すること、法制度をよりよくするためにはどのようにすればよいかを考察すること等も、法律学とのかかわり方です。

Q5：法学部では日本以外の法についても学べるということですが、どのようなものがありますか。

A5：英米、ヨーロッパ、中国などの法について講義やゼミなどがあります。内容も基礎知識から理論・実務の現状まで、様々なものから選択することができます。

Q6：法学部のカリキュラムには実習（裁判を想定して実際に学生でやってみる）などはありますか。

A6：カリキュラム上は特にそうしたものはありませんが、ゼミナールなどでは模擬裁判を行うこともあります。

Q7：法学部の経済学副専攻プログラムの詳細について教えてください。また「副専攻プログラム」を実際に行っている人はどのくらいいるのでしょうか。

A7：「副専攻プログラム」は、法学部の学生が経済学部の科目をより効率的・体系的に学ぶことができるよう作られており、経済学部の定める科目のなかから卒業までに「合計20単位」を履修することになっています。プログラムを修了した人には証明書が発行されます。

平成25（2013）年度の場合、2年生7人、3年生24人、4年生28人の計59人がこのプログラムを活用しています。なお、このプログラムを活用していない学生でも、自主的に経済学部を含む他学部の科目を履修することができます。

Q8：法曹の講師は何人くらいいますか。

A8：学部では非常勤講師やゲスト・スピーカーとして弁護士が授業を担当することもありますし、専任教員の中にも法曹資格を有している者が複数います。法曹実務に携わっていた教員や、外国の法曹資格を持っている教員もいます。



Q 9 : 国際関係についていろいろ学びたいのですが、法学部と社会学部での学べることの違いを教えてください。

A 9 :ひとくちに国際関係といっても、テーマは様々（安全保障、国際経済、国際組織、地球環境、国際人権、文化交流など）です。本学ウェブサイトで公開しているシラバス（講義要綱）を見たり、オープンキャンパスでの学部説明会を利用して、関心のあつたテーマの講義がどちらの学部にあるか確認したりして、検討するのがよいでしょう。

法学部では、国際法、国際組織法、国際関係史、外交史、国際政治理論、国際安全保障、国際政治経済、国際機構論、グローバル・ガバナンス論などを開講しています。また本学では、他学部の講義を履修することも比較的自由にできますので、広く学ぶことが可能です。

Q 10 : 法学系の職業を目指しています。大学生活の中で様々な先輩に仕事の実態を聞きたいのですが、そういった縦のつながりはどのようになっているのでしょうか。

A 10 :入学するとすぐに本学の同窓会である如水会主催の歓迎会があります。その後も、如水会は留学や就職を始めとする様々な場面で、本学の学生の生活をサポートしてくれます。

また、定期的にOB・OGと交流する機会を設けているゼミナールもあります。進路の選択については、キャリア支援室を通じて入手できる情報も有益です。

Q 11 : 将来的には法曹（裁判官、検察官又は弁護士）を希望しています。高校生活ではどのようなことに気を付けていけばよいでしょうか。具体的なアドバイスがあれば教えてください。

A 11 :高校における勉強は基本的な「物の考え方」や価値観を養うものであり、人間としての基礎を形作るものです。したがって、高校では高校の勉強をきちんとするべきであり、「法曹になるための特別な高校教育」などはありません。しかし、「現代社会」や「倫理・政経」などの科目を通じて社会に対する関心を持つようにすれば、将来大きく役立つと思います。

Q 12 : 国際開発援助などの国際機関で働きたいと思っているので、国際法を始め、外国語などに興味があります。具体的にはどのような内容が学べるのか是非教えてください。

A 12 :国際機関で働く国際公務員や、NGOで活躍することを希望する学生が、本学でも近年増えています。法学部では基礎から実践的、応用的なものまで多様な外国語学習の機会を提供するとともに、「国際法」、「国際機構論」を始めとする国際関係の様々な科目を提供しています。英語による専門科目の教育も行っており、短期・長期の留学制度も充実しています。

Q 13 : 私は将来外交官になりたいのですが、この大学では、そのためにどのような教養を身に付けることができますか。外交官向けの特別な講座は何かありますか。

A 13 :試験対策という狭い意味での特別な講座は設けていませんが、本学はこれまでに数多くの外交官を輩出してきました。それは本学のカリキュラムが、国際舞台で活躍するために必要な教養を身に付ける上で、きわめて効果的であるからだと思われています。

具体的には、国際法、国際政治史（外交史）、国際関係論（国際政治学）、様々な外国語、世界各国の法律・政治・経済・文化などを扱う幅広い講義の中から、必要に応じて自由に選択することができます。

そのほか、例えば開発経済学を経済学部から履修したり、アジアやアフリカの地域研究を社会学部から履修したりすることができます。外国語は、すべての学部に通じる科目として、様々な言語が用意されています。

Q 14 : 法曹界に多くの優秀な存在を送り込むために、一橋大学が率先して進めている活動には、どのようなものがあるのですか。

A 14 :法科大学院を設立したり、法曹界などで活躍しているOB・OGで構成される法曹如水会と密接に連携して教育を行っています。

Q 15 : 就職希望者と法科大学院・法学研究科大学院進学希望者それぞれで、カリキュラムにどのような差があるのか教えてください。

A 15 :就職希望者と大学院進学希望者とで、履修方法に違いを持たせていることはありません。学生自身が、それぞれの目的に応じて履修科目を選択します。もちろん、ゼミ指導教員などに科目の選び方を相談することができます。

Q 16 : 法科大学院入試や公務員試験への対策などは、具体的にどのようなことをしていますか。

A 16 :各種の試験対策のために設けられた特別な科目はありません。法学部の通常の講義を聴くことが、何よりも試験の勉強になると思われます。

法科大学院

Q 1 : 法科大学院と通常の学部とで、やることはどのように違うのですか。

A 1 :法学部では、社会人として身につけるべき法律的素養や法律の基本的理念などに重点をおきつつ、社会科学として法律学を学びます。他方、法科大学院では、学部で習得した法的知識を実際に応用して社会に生起する法律問題の検討を行うとともに、より先端の問題を解決する実践的能力の習得を目指します。両者は教育目的が異なり、法学部での学習は、単に法科大学院での学習内容を簡単にしたものではありません。

Q 2 : 法科大学院では、どのような法曹の育成に、重点をおいていますか。

A 2 :①ビジネス法務に精通した法曹、②国際的な視野を持った法曹、③人権感覚に富んだ法曹の育成を目的としています。



Q3：法科大学院に入学するには、学部でどのような勉強をすればよいのですか。

A3：学部で習う基本的な知識をしっかりと修得し、自分の頭で考える訓練をしてください。それ以上の細かい「受験技術」は不要です。

Q4：一橋大学法学部から一橋大学法科大学院へ進学する際に特別な入試方法がありますか。

A4：本学の学部生が、本学の法科大学院へ進学する際にも、入試での扱いは一般の受験生と同じです。特別な入試方法や特別枠があるわけではありません。

Q5：法科大学院の入学試験では、何人くらいが外部からの合格者になりますか。

A5：平成25（2013）年度入学試験では、既修者64人の内40人（62.5%）、未修者28人の内23人（82.1%）が、他大学出身者でした。

Q6：法科大学院の、司法試験の合格者数・合格率はどれくらいですか。

A6：過去5カ年の合格者の人数は次のとおりです。

	司法試験の合格者数	合格率の順位
平成 25 (2013) 年度	67 人	3 位
平成 24 (2012) 年度	77 人	1 位
平成 23 (2011) 年度	82 人	1 位
平成 22 (2010) 年度	69 人	2 位
平成 21 (2009) 年度	83 人	1 位

（直近の平成 25 年度司法試験における本学法科大学院修了者の合格率は 54.5%で、全国の法科大学院の中で第 3 位の合格率となっています。）

Q7：法学部以外からでも法科大学院へ進学可能ですか。

A7：可能です。法科大学院へは、法学部出身者（いわゆる「既修者」）だけでなく、法学部以外の出身者（いわゆる「未修者」）も進学することができ、既修者は2年間、未修者は3年間かけて修了する制度になっています。なお、本学の入学選抜においては、法学部以外の出身者が、既修者試験を受験することも可能です。合格した場合、当該受験生は、2年間の既修者コースに所属することになります。

社会学部

Q1：社会学部にはどのような特色がありますか。

A1：社会学部は、社会科学の諸部門の総合という理念のもと、様々な理論に学び、経験的・実証的な研究の実践を通して、「社会」を総合的に、分析的・批判的に、構想力をもって読み解いていくことを目指す学部です。特定の学問分野に限定することなく、社会学、言語学、哲学・思想、心理学、人類学、地理学、教育学、政治学、社会政策、歴史学など、様々な学問分野・研究分野を行き来し総合しながら「社会」を探求していく、そうした力を社会学部は育てます。

社会学部には、これまで、哲学と歴史を重視してこれらに学んできた伝統があります。また、その時々社会と人間の問題に取り組み、分析・提言を繰り返してきた蓄積があります。このような伝統と蓄積を踏まえた、さまざまなテーマについての、多彩な思考法・接近法による授業科目が、社会学部には多数用意されています。そうした授業科目を担う教員スタッフは、それぞれに各分野の先端的研究に携わる研究者です。世界のさまざまな地域について、その地域の言語をよく知り、実体験や現地調査を通してその地域の諸問題に取り組むスタッフが充実しているのも、社会学部の特徴のひとつです。そして、こうした教員たちとともに、講義やゼミナールを通じて、各々の関心・問題意識を携えながら学び、研究するたくさんの学生たちが、社会学部を作り上げています。

社会学部のカリキュラムと授業内容、教員スタッフ、ゼミナール、学生の卒業論文テーマなどについての詳細は、社会学部の Web サイトをご覧ください (<http://www.soc.hit-u.ac.jp>)。

本日の学部説明（東キャンパス 東2号館2階 2201 番教室）では、入学後のカリキュラムの概要、卒業論文のテーマ、就職状況なども紹介します。社会学部で、どのような勉強ができるのかを知るのに役立ててください。もっと知りたいという人は、学部説明の後、同じ教室で直接教員に質問することができるコーナーを設けます。また、3階の2301番教室では、学生に直接質問ができる「相談会」と学生が社会学部らしさを写真で表現した「写真展」を開催しています。こちらも、ぜひ活用してください。

Q2：カリキュラムの内容はどのようになっていますか。また、どのような科目を履修できますか。

A2：社会学部は学科には分かれていません。全体がひとつの社会学部社会学科なのですが、講義科目だけで100以上もの多様な授業が行われています。これらは履修する学年ごとに、導入科目（1・2年次）、基礎科目（2年次以降）、発展科目（3年次以降）に区分されます。たとえば、導入科目の「社会研究の世界」（1年次必修）では、ひとつひとつのテーマをめぐって、毎週異なる教員が登場し、さまざまな角度からのアプローチを試みます。この授業によって、社会学部を構成する多彩な研究分野の教員とその研究を知ることができます。また、「社会研究入門ゼミ」では、1年次生の冬学期から社会学部の専門ゼミナールの一端を体験することができます。2年次以降に履修する基礎科目と発展科目は、内容に応じて以下のような6つの研究分野に分類されています。

①「社会動態研究」社会学理論と社会学的調査の理論と実践を研究し、さらに国際社会学、言語社会学の研究をもカバーする



- ②「社会文化研究」 哲学, 倫理学, 社会思想史, 言語文化, 芸術など社会科学の源流をなす古典文献を読みつつ, そのアクチュアリティを現代につなげる
- ③「人間行動研究」 社会心理学, 社会人類学, 社会地理学など, 様々な空間における人々の実践の具体的姿を探る
- ④「人間・社会形成研究」 教育, 政治, スポーツなど, 人間及び社会を積極的に形成する行為としての自由な「活動」に焦点をあてて社会を研究する
- ⑤「総合政策研究」 社会政策, 地域政策, 雇用政策を中心に, 現代社会の政策課題について, 理論と実証の両面から研究する
- ⑥「歴史社会研究」 古今の歴史的史料を解説する技術を学びつつ, 日本, アジア, ヨーロッパ, アメリカに分かれその社会史・文化史を研究する

学生たちは, これらすべての研究分野の開設科目から, それぞれの関心・問題意識に応じて自由に科目履修を行います。修学のためのガイドラインに従いながら, 学生たちがそれぞれに, 自分用のカリキュラム(「マイ・カリキュラム」)を設計していくことになります。

このときに大事なのがゼミナールです。ゼミナールは社会学部のほぼすべての教員が少人数の学生とともに行う授業科目で, 毎年60近く開講されています。学生は3年次以降, 必ずひとつのゼミナールを履修し, これを拠点としてそれぞれの学習・研究を重ねていきます。

もっと詳しく知りたい方は, 社会学部 WEB サイトの『社会学部履修ガイド』をご覧ください。
(http://www.soc.hit-u.ac.jp/guide/fss_guide.html)

Q3：環境政策系に関心があります。一橋大学では他学部の講義も割合と自由に履修できると聞いたのですが, 社会学部に入学しても, 環境経済学・資源経済学などの経済学部の講義も取ることができるのでしょうか。

A3：一橋大学は学部間の垣根が比較的低く, 授業ごとに設定されている要件(学年, 関連授業の履修など)を満たせば, また学ぶ側でエネルギーを持続できれば, 他学部の授業を受講することは容易ですし, 単位も認定されます。そうやって取得した単位は最大で24単位まで, 社会学部を卒業する要件である144単位の中にも含めることができます。

Q4：将来は報道関係の仕事に就きたいと思いますが, 卒業生はどのような報道関係の仕事に就いていますか。

A4：卒業後, マスコミ関係の仕事に就く人が多いというのも社会学部の特徴です。新聞社やテレビ局, 通信社, 出版社などのほとんどすべての報道関係の職場で一橋大学社会学部の卒業生が働いています。

Q5：社会学部では, 卒業生がマスコミ関連の会社に就職できるようにするために, どのような対策を行っているのですか。

A5：社会学部には, マスコミュニケーションを主題とした授業(「マスコミュニケーション基礎論」, 「マスコミュニケーションの諸問題」)がありますし, これらや関連分野を専攻とする教員が複数います。しかし, 社会学部として特別な対策を行うことはしていません。将来マスコミ関連の仕事をしたいという学生たちは, 一方でそれぞれに就職関係の情報収集やスキル・アップを心掛けながら, 他方で教育, 政治, 社会思想, 異文化理解, 社会福祉, 雇用政策, 平和と紛争, 国際関係, 等々の様々な研究分野で各々の関心・問題意識に応じて学習・研究を進め, 人や社会や世界について考察し, 議論を重ねています。そうした積み重ねこそが, 将来マスコミ関係で仕事をしていく重要な素地を育てていくものであり, また, それはマスコミに限らず多くの職業についてもあてはまることです。

Q6：教員になることを考えています。社会学部では教員免許を取得できますか？

A6：一橋大学では学部ごとに教職課程の認定を受けており, 卒業に必要な単位に加え, 教職専門科目を含む所定の単位を修得することで, 教員免許を取得できます。

社会学部では中学社会, 高校地歴, 高校公民, 中学・高校英語の免許を取得することができますし, 教員として働いている卒業生もいます。

授業について

Q1：一橋大学では, どのような授業が行われるのか教えてください。

A1：1・2年次では, 語学, 自然数理科目等を中心とした全学共通教育科目及び学部教育科目のうち基礎的な科目を履修し, 3・4年次では, 学部教育科目を中心とした専門科目を履修することになります。また, 3・4年次には, ゼミナールに必ず所属することになります。講義の内容は, 「学務情報システム・学生ポータルMercas」のシラバス画面においてどなたでも参照可能です。

<https://mercass.hit-u.ac.jp/> (大学 HP > 在学生の方へ > [学務情報システム・学生ポータル MERCAS](#)) というバナーをクリックし, ユーザー ID, パスワードを入れずにログインしてください。 (MERCAS: Mercury Campus System)

Q2：講義は主にどのような形式で行われているのですか。

A2：大・中規模教室で教員が黒板やパワーポイントを用いて大勢の学生に講義を行うものや, 小さなゼミ室でディスカッションを行うものがあり, 講義により様々です。(3・4年次で所属するゼミナールは, ゼミ室を使いディスカッションを行うものがほとんどです。) どのような形で授業を実施するかは, 科目・教員により異なります。



Q3：3・4年次で履修するゼミナール（以下ゼミ）は、どのように決めているのでしょうか。選択の際に各ゼミを知る資料は、配付されるのでしょうか。

A3：2年次から3年次に進学するときに志望するゼミに応募し、選考で決定されます。

ゼミの内容については事前に「学務情報システム・学生ポータル MERCAS」でゼミ情報が公開される他、教務課窓口等でも各ゼミ内容を記載した冊子を配付しています。また、学生で組織される後期ゼミ協議会において自主的にゼミナール説明会を行い、学生が自主作成したゼミ紹介冊子を配付します。さらに、ゼミ選択の参考のためにオープンゼミ（普段の活動の様子や雰囲気等を体験してもらうためにゼミを開放すること。）を開催しているゼミもあります。

Q4：一橋大学ならではの特徴的な講義やゼミはありますか。

A4：各学部には様々な教員がいますので、特徴のある講義やゼミも多々あります。ここでは個別に指摘するのを控えますが、ゼミ教育重視の姿勢自体が本学の大きな特徴だといえると思います。

ゼミは平均10人前後の少人数からなるため、学生同士、そして学生と教員が緊密な関係を築くこととなります。また、学部間の垣根も低く、所属学部を超えていろいろな授業が履修できるのも本学の特徴です。さらに、平成25年度からは、学部1年次に履修する英語科目に、ネイティブ教員による英語コミュニケーションスキル科目が追加されています。

Q5：専門課程での授業人数は何人くらいですか。

A5：ゼミナール（演習）は多くても20人程度の少人数ですが、講義は定員枠のない選択科目がほとんどなので、場合によると数百人の多人数講義もあります。

Q6：週の平均受講数はどれくらいですか。

A6：履修科目登録上限制度により、1年間に履修登録できる科目単位数の上限は50単位と定められています。週1コマの講義の単位数を半年2単位と換算すれば、1年次の週の平均受講数は概ね13コマ程度となります。

Q7：専門的な研究は必ず取り組まなければなりませんか。

A7：後期ゼミ（3・4年ゼミ）と卒業論文は必修です。

Q8：高校と大学の授業は具体的にどのような違いがありますか。

A8：高校では基礎的な科目の勉強が中心だったと思いますが、大学ではずっと広い範囲の専門領域が科目としてカバーされています。1年間に、2000程度の授業が開講されています。しかも個々の科目では、高校での勉強よりもはるかに深い内容になっています。

また、高校では指定された教科書に従って授業が進められることが基本ですが、大学では何を強調してどう教えるかは、教員の判断によって決まります。教科書を用いない場合もあり、授業の内容は、科目名だけでなくどの教員が教えるかということによっても大きく変わります。

授業の方法も、純粋に知識を伝える講義形式、学生とのディスカッション中心の授業、実験や実習形式等の様々な形式があります。授業を受ける学生にとっては、大学での授業科目の多くが選択制になっているので、まず、どのような目的で何を学びたいかということをしっかり持つことが重要になってきます。

Q9：一橋大学は語学教育にどの程度力を入れていますが。

A9：全学共通教育科目において、約10言語を初級から上級まで開講していますので、1年次から4年次まで体系的に学ぶことが可能です。必修語学を1年次、選択必修語学を主として1・2年次に履修しますが、中・上級外国語はさらに4年次まで選択して履修できます。

また、各学部では、専門分野の英書講読や英語表現等を学ぶことを目的とした科目があり、語学教育には、かなり力を入れています。平成25年度以降の入学生からは、1年次で履修する英語科目の中にネイティブ教員とのディスカッションを通して英語コミュニケーションスキルを学べる科目が追加されています。専門科目においても英語だけで講義を行うものが複数開講されています。また、アメリカやスペイン、中国などへの短期海外留学を行う科目も開講されています。そのほかにも、外国人教師による授業やLL教室・CALLシステムといった設備等も充実しています。

Q10：第二外国語は何を選択できますか。

A10：いわゆる第二外国語としては、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語があります。

また、その他の外国語として、アラビア語、ギリシア語、ラテン語があります。

Q11：語学教育・通訳に関する講義はありますか。

A11：外国語の科目は、約10言語、初級から上級まで各種ありますが、通訳養成を目的とした特別な科目はありません。

Q12：卒業要件に加わった「GPA制度」について教えてください。

A12：平成22年4月以降の学部1年次入学者から、卒業要件に一定の値以上のGrade Point Average (GPA)を満たすことが必要となりました。GPAとは、個々の学生の学習到達度をはかる指標となる数値で、5段階成績評価による科目の成績を点数化（A=4, B=3, C=2, D=1, F[不合格]=0）したうえで、履修した科目1単位あたりの成績平均点を求めたものです（*）。

GPA = $\frac{4 \times A \text{ 取得単位数} + 3 \times B \text{ 取得単位数} + 2 \times C \text{ 取得単位数} + 1 \times D \text{ 取得単位数} + 0 \times F \text{ 取得単位数}}{\text{総履修登録単位数}}$
(*)GPAの計算式：



Q13：他学部の講義を履修することはできますか。また、履修できる場合の上限は何単位ですか。

A13：本学では、全学共通及び所属学部の必須科目を満たしていれば、履修条件が指定された一部の科目を除いて、他学部の科目を履修することが可能です。また、他学部の科目の履修上限はありませんが、卒業要件に含めることができる単位数は決まっていますので注意が必要です。

Q14：各学部で取得できる資格にはどのようなものがありますか。

A14：各学部に教育職員免許状取得のための課程があります。また、所属学部を問わず、社会学部の一部科目を修得することにより、「社会調査士」の資格申請をすることが可能です。

Q15：取得できる教員免許について教えてください。

A15：一橋大学で取得できる教員免許は、以下のとおりです。

商学部：高校教諭一種免許（商業）

経済学部：中学校教諭一種免許（社会）、高校教諭一種免許（地理歴史、公民）、中学・高校教諭一種免許（数学）

法学部：中学校教諭一種免許（社会）、高校教諭一種免許（地理歴史、公民）

社会学部：中学校教諭一種免許（社会）、高校教諭一種免許（地理歴史、公民）、中学・高校教諭一種免許（英語）

なお、本学は教育学部でなく、あくまでも開放制の教職課程なので、自分自身の責任において、卒業要件とは別の教職課程のカリキュラムで必要とされる単位をオプションで修得しなければなりません。

Q16：英語の教員免許は、社会学部以外では取得できませんか。

A16：本学では、社会学部社会学科のみが中学校・高校教諭1種免許（英語）取得のための教育課程として文部科学省に課程認定されています。

しかし、教育職員免許法上、他学科での聴講が可能なので、他学部の学生であっても、教職課程のカリキュラムをよく理解した上で、付加的に修学するつもりであれば取得は可能です。

Q17：四大学連合（複合領域コース）について詳細に教えてください。

A17：本学と東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学が平成13年3月に連合協定を結び、個々の大学のみでは不可能であった学際的教育コースや、編入学、複数学士号の取得などへの道を開いていこうという試みで、2年生以上を対象に開設しています。

今までも、卒業後に理工系の大学などに再度入学して異分野の道に進む人が少なからずいましたが、本学のみでは養成できなかった理工学や医学の知識を有した卒業生の育成を目指しています。詳細は、本学のウェブサイト (<http://www.hit-u.ac.jp/partnership/g4/index.html>) の「四大学連合」をご覧ください。

なお、現在、東京外国語大学とのコースはありません。

また、概略は、本日の配付資料「大学案内」に掲載しています。

Q18：他大学との単位交換制度について教えてください。

A18：多摩地区国立五大学（東京外国語大学・東京学芸大学・東京農工大学・電気通信大学・一橋大学）、津田塾大学及びお茶の水女子大学と実施しています。

また、四大学連合の複合領域コースやEUコース（東京外国語大学・国際基督教大学・津田塾大学及び一橋大学）で取得した授業科目についても、単位互換の単位として認定しています。

これらの協定を結んでいる他大学の授業が、受講料を払うことなく受けられ、年間で60～70人程度がこの制度を利用しています。また、60単位まで単位互換が認定されます。

Q19：授業評価について教えてください。

A19：受講する学生の意見に耳を傾け、授業をより改善することを意図した制度です。導入以来、本学の教育の改善に一定の効果をおもてきたものと考えられます。今後も段階的に授業評価制度の改善を行い、本制度をさらに効果のあるものとすると同時に、最終的に本学の個性や風土にふさわしく、真の教育改善にとって有益なものとなるよう、改善を進めています。

Q20：国際公務員を目指しています。国際関係や国際化に対応した教育は受けられますか。

A20：法学部には国際関係コースがあり、国際法や国際機構論の授業があります。また他学部でも国際関係の授業科目を開設していますし、この法学部の国際関係コースの授業科目も履修できるようになっています。

ただし、国連への採用や資格試験等に対応した特別の講義は開設されていません。

Q21：グローバル教育に関連した授業は受けられますか。

A21：Hitotsubashi University Global Education Program (HGP) という、一橋大学における教育の国際化とグローバル人材の育成をけん引するプログラムが2010年度よりスタートし、社会科学分野を主とした学際的な科目が提供されています。HGPは、学部を問わず、一橋大学のすべての日本人学生、外国人留学生を対象としており、授業は英語で行われています。

HGPの授業は、各国の学生交流協定校からの交換留学生をはじめとする多くの外国人留学生が受講しており、日本にいながらにして、国際的な視野と感覚を身につけられる特徴的なプログラムです。国際交流に興味がある、海外留学をしてみたい、実践的な英語力を身につけたい、といった学生に特に有益な授業科目となっています。

プログラムの詳細は、HGPウェブサイトを参照してください。

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/courses/hgp/index.html>



Q22：平成25年度から発足したグローバル・リーダーズ・プログラムとはどんなものですか。

A22：世界的な視野で問題解決に向けて提言ができる人材を育成する特別プログラムで、商学部と経済学部から開始されました。商学部では、21世紀のグローバル・リーダー育成を目標とする「渋沢スカラープログラム」を開設しました。グローバル化が進んだ現代社会の行方的確にとらえる能力を備え、あふれる情熱と責任感をもって世界の産業社会を牽引する人材を育成することが目的です。同プログラムでは、英語による商学・経営学科目や Shibusawa Scholar ゼミを開講すると同時に、海外留学や海外研修、One Bridge セミナーを効果的に組み合わせた学習機会を提供します。1年次終了時に選抜されたプログラム学生は、同プログラムにおいて提供されている専門科目および海外留学先の大学において履修する科目について所定の単位を修得するとプログラム修了証（Certificate）を授与されます。

経済学部では、全学生が基礎から応用まで幅広い専門科目を英語で履修できます。英語スキル科目、英語による少人数・双方向型講義「基礎ゼミ」、アジアや欧州への海外調査も開講されます。また、1年次の終わりに15名程度の選抜クラスを結成します。選抜クラスの学生は、海外調査に優先的に参加でき、長期留学実現に向けて手厚い支援を受けることができます。また、留学先での履修を含めて、経済学部専門科目の単位の6割以上を英語による授業で修得することが義務付けられます。これらの要件をすべて満たした学生には、優等学位として「グローバル・リーダーズ・プログラム修了証書」が授与されます。

Q23：理系の講義も受けられますか。

A23：全学共通教育科目の中には、理科の専門講義としてサイエンスミニマム、物理学、化学、生物学、地学等の科目と、実験を主とした数科目の教養ゼミ（理科）があります。

Q24：入学後の学生の満足度を教えてください。

A24：平成21年度学生生活実態調査の結果によると、大学生活への満足度は、「満足している」と「まあ満足している」を合わせて85.7%となっています。

学生生活について

Q1：サークルやクラブ活動、また行事などについて教えてください。

A1：本学ウェブサイトからサークル紹介へアクセスしてください（本学 HP→一橋大学で学びたい方へ→学生生活→サークル等）。

Q2：学園祭（一橋祭やKODAIRA祭）は、どのように実施されるのでしょうか。

A2：学生が組織する一橋祭運営委員会やKODAIRA祭実行委員会が企画・立案し、開催しています。なお、詳細については、本学ホームページから運営委員会等にアクセスしてください。

Q3：寮生活について教えてください。

A3：概要は次のとおりです。

- ①場 所：本学小平国際キャンパス内に小平国際学生宿舎があります。国立キャンパスから、電車利用：約30分～40分、自転車利用：約20分～30分
- ②部 屋：小平国際学生宿舎の部屋は、個室（10㎡～12㎡）になっており、机、本棚、ベッド、冷蔵庫等が設置されています。総室数785室で学部学生のほか、大学院生、留学生などが入居しています。
- ③寄宿料等：毎月、寄宿料5,900円の他に、共益費・自治会費・光熱水費（補食室・シャワー室等の共用部分も含む）を負担することになります。合計約14,000円～20,000円の負担になります。また、退去時清掃費として入居月に12,000円請求します。
- ④選考方法：入学試験募集要項に綴じられている申請書類及びその他の必要書類を期日までに提出してください。学生の家族の経済状況等を勸案のうえ、学内規則に即して選考を行います。
- ⑤そ の 他：入居者は、本学で定める「一橋大学国際学生宿舎規則」を遵守してもらいます。

Q4：学生寮は2年生からでも入寮できますか。

A4：2年生からでも入寮できます。毎年、12月～翌年1月に募集要項を配付し申請受付をしています。また、特別な事情がある場合には臨時入居を随時受け付けていますので、学生支援課窓口にお問い合わせください。

Q5：自宅から通学できない人は、寮などに入っているのでしょうか。

A5：自宅からの通学が困難な場合、大学の近くに住まいを借りることになりますが、国際学生宿舎に入居するほか、アパートや民間の学生会館等を利用することも多くなっています。なお、大学の消費生活協同組合（生協）では、アパート等の紹介を行っていますので、お問い合わせください。（生協 HP <http://www.univcoop.jp/hit-u/>）

Q6：悩み事や健康の不安などを相談するところがありますか。

A6：学生相談室では学生生活全般におけるあらゆる相談（修学・履修、進路・就職、生活、経済、課外活動、健康、対人関係等）をお受けしています。専任の教員や臨床心理士の資格を持つカウンセラーが、皆さんのあらゆる相談に応じています。保健センターでは、心身の健康面に関することを中心に、医師・保健師・栄養士・臨床心理士が相談に応じています。必要な場合は他の医療機関への紹介もしています。ハラスメント相談室では、各種ハラスメントにおける相談をお受けしています。



就職，進学，資格について

Q1：卒業生の就職状況はどうか。

A1：平成 25 年度学部卒の内定率は 96.3%（前年 97.0%）で，長期間全国でもトップクラスを続けています。有力ビジネス誌による「就職に強い大学選び」2013年 10月号では，総合得点で一位になりました。調査対象の全国 638 の大学の中で，本学の就職実績が実証されたデータになります。

進路は一部上場企業を中心に，あらゆる業種にわたっています。人数の多い順に，三菱東京 UFJ 銀行，みずほフィナンシャルグループ，三井住友銀行，三菱商事，住友商事となっています。

Q2：学部別の違いはありますか。

A2：学部による就職率の差は，ほとんどありません。全学部で見ると，就職希望者の半数の就職先が金融（銀行が最多）か製造業です。商学部・経済学部の学生の過半数がこの 2 業界に就職しています。学生の 3 分の 1 が法科大学院等に進学する法学部では，この 2 業界に就職する学生が半数未満で，官公庁に 1 割前後就職するのが特徴です。社会学部の学生は，金融に就職する率が他学部に比して非常に低い代わりに，マスコミ・情報通信・コンサル等サービス業（年によっては官公庁）に就職しています。他学部と比較して，就職先がバラエティに富んでいます。

Q3：大学の就職支援の体制はどうなっていますか。そのための授業はありますか。

A3：このような本学の強みをさらに強化し，学生のキャリア人生の充実を図るため，本学ではキャリア支援室を設けています。その主たる職務は，キャリア教育，就職相談，就職セミナーの 3 本柱です。キャリア教育では，1 年次に生涯キャリアを考える視点を提供し，自己のキャリア仮説を構築します。

2～3 年次は，同窓会である如水会と連携し社会で活躍する人々（合計で年に 100 名をこえる）を招いての授業「キャリアゼミ」（企業が大学へ）や，職場実習を含めたインターシップ授業（学生が企業へ）があり，企業で活躍している人，職場の実態にふれることができます。

Q4：企業説明会や面接の準備もしてくれますか。

A4：キャリア支援室では，3～4 年生対象に，年間 40 本の就職対策や 300 社の採用のための企業説明会を実施しています。本学の学生を採用したい企業はとて多く，合計すると，のべ 530 社が大学に来て説明会を開いてくれます。

また，OB・OG のキャリアアドバイザーを配置し，個別相談，アドバイスを行っています。年間相談件数は 2,400 件に上り，スムーズな相談体制を作っています。

Q5：法学部から法科大学院へ進学した場合，司法試験の合格状況はどうか。

A5：平成 24 年度の司法試験の合格者 [法務省発表]によると，合格者は 2,102 名，合格率は 25.1%でした。全国の合格率 1 位は，昨年に引き続き一橋大学で 57%（受験者に対する合格者の割合）でした。

Q6：国家公務員総合職の合格状況はどうか。

A6：平成 25 年度国家公務員採用総合職試験には 31 名が合格しました。

Q7：大学院への進学数はどのくらいですか。

A7：平成 25 年度の大学院進学率は 11.4%で，そのうち 73.2%が一橋大学大学院に進学しました。

受験について

Q1：どのような学生に入学して欲しいと思いますか。

A1：本学のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）は，本日配付した「一橋大学案内 2015」及び「平成 27 年度入学者選抜要項」に記載されています。なお，学業の面では，入学試験における各教科・科目の配点などを比較してもらうと，どのような学生を求めているかが分かるかもしれません。

Q2：推薦入試について教えてください。

A2：商学部において推薦入試を実施しています。定員は 15 人となっています。試験科目や科目ごとの配点などの詳細については，本日配付した「平成 27 年度入学者選抜要項」をご覧ください。

Q3：一橋大学を受験するにあたって今後の勉強方法などについて，具体的に教えてください。

A3：受験対策などの質問については大学としてはお答えできないのですが，大学入試センター試験や第 2 次試験の教科・科目ごとの対策については，本学の在学生在が作成し，本日の配付資料になっている「夏本」などを見てもらうと参考になるかもしれません。

また，その他の質問については，本日，東キャンパス 1 号館 1101 番教室において，在学生による受験相談コーナーを設けておりますので，ぜひ聞いてみてください。なお，11 月初旬頃の一橋祭（一橋大学の学園祭で，今年度は 11/1（土）～11/3（月）に開催）や 6 月初旬の KODAIRA 祭（今年度は実施済）でも，本学の在在学生による各種受験相談を企画していますので，ぜひご利用ください。



留学について

Q1：大学を休学して留学する場合の出発までの過程について詳しく教えてください。

A1：留学にはいろいろなケースがあります。国際教育センター留学生・海外留学相談室では、海外留学全般の相談に応じており、専門の教員がいつでも相談に乗りますので、入学後相談してください。なお、本学の海外留学制度等は以下のウェブサイトで紹介していますので、参照してください。

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/index.php>

Q2：海外留学のことについて詳しく教えてください。

A2：1年間の交換留学を主とする「海外派遣留学制度」は学部3年生と4年生、大学院生が対象ですが、派遣される前年度の夏学期に、派遣留学生を選抜しています。興味がある方は、1年生のうちから情報収集し、語学の準備をしたり、長期休暇を活用して海外経験を積んだりすることをお勧めします。

また、以下に掲載する長期休暇中に行う短期の海外研修プログラムは、1年生から参加できます。

☆短期の海外研修プログラムは、授業として実施します。 平成25年度の予定です。27年度以降は変更する可能性があります。	
1 英語Ⅱ/Ⅲ 海外語学研修 @ Stanford (夏学期 2単位)	・研修先(国・都市) スタンフォード大学(アメリカ・スタンフォード) ・研修時期 夏休み ・期間 約4週間
2 英語Ⅱ/Ⅲ 海外語学研修 @ UC Davis (夏学期 2単位)	・研修先(国・都市) カリフォルニア大学デーヴィス校(アメリカ・デーヴィス) ・研修時期 夏休み ・期間 約4週間
3 ドイツ語中級 海外語学研修 @ Aachen (夏学期 2単位)	・研修先(国・都市) アーヘン言語アカデミー(ドイツ・アーヘン) ・研修時期 夏休み ・期間 約4週間
4 短期海外研修(オーストラリア) (冬学期 2単位)	・研修先(国・都市) モナシュ大学(オーストラリア・メルボルン) ・研修時期 春休み ・期間 約4週間
5 短期海外研修(中国) (冬学期 2単位)	・研修先(国・都市) 北京大学(中国・北京) ・研修時期 春休み ・期間 約4週間
6 短期海外研修(スペイン企業派遣) (冬学期 2単位)	・研修先(国・都市) Berge社(スペイン・マドリッド) ・研修時期 春休み ・期間 約5週間
7 短期海外研修(韓国) (冬学期 2単位)	・研修先(国・都市) 西江大学(韓国・ソウル) ・研修時期 春休み ・期間 約4週間

Q3：一橋大学海外派遣留学制度では、どのようなことを支援してもらえるのでしょうか。

A3：平成25年度は、61人に奨学金が支給され、支援内容は、1年間の海外留学期間中の奨学金(往復国際航空運賃、海外旅行保険及び地域別に定めた滞在費)でした。奨学金の支給人数、奨学金額については、今後変更する可能性があります。なお、本留学制度では学生交流協定校への派遣留学となるため、奨学金の有無に関わらず、留学先の授業料は不徴収となります(ただし、留学期間中、一橋大学の授業料は支払う必要があります)。

一橋大学海外留学制度のほか、短期海外研修、海外語学研修(いずれも2単位の授業として実施されます)に参加する場合にも、奨学金が支給されています。

Q4：海外の協定校には、どのようなところがありますか。

A4：平成26年5月1日現在で北米地区6校、中南米地区1校、オセアニア地区4校、アジア地区16校、欧州地区24校の計51校と大学間の学生交流協定を締結しています。

(詳しくは留学のウェブサイト(<http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/haken2/index.html>)を参照してください。)

Q5：毎年何人くらい留学しているのでしょうか。

A5：一口に留学といっても、短期のものから長期のものまで、また大学等から奨学金をもらって行くものもあれば、自費で行くものもあるなど、いろいろな形態があるので、これらをすべて含めればかなり多くの学生が留学をしているといえるでしょう。

平成25年度は、短期海外研修により37人、海外語学研修により47人、海外派遣留学制度により63人、グローバルリーダー育成海外留学制度により2人の学生が海外に派遣されました。

Q6：グローバルリーダー育成海外留学制度について教えてください。

A6：平成23年4月に発表された「一橋大学プラン135」では、教育の多角化、高度化、グローバル化を推進することにより、「スマートで強靱なグローバルリーダー」を育成することが教育目標として掲げられています。本学はこれまでも、高いレベルでの社会科学の専門的知識を習得した人材を育ててきました。急速なグローバル化が進む中で、それに加えて、現実を踏まえた理論構築能力、優れた語学力・コミュニケーション能力、思想・文化・芸術への深い造詣、問題を感知・発見した上でそれを解決する能力や強靱さ、異文化への高い対応力等を身につけた人材を育成しようとしています。そのために、本学は学部学生に対し、世界のトップクラスの大学における専門教育の機会を与えるとともに、本学における教育及び研究の国際化に寄与することを目的とした「グローバルリーダー育成海外留学制度」を発足させました。

対象は学部3~4年生で、派遣先はオックスフォード大学セント・ピーターズ・カレッジ、LSE(ロンドン・スクール・オブ・



エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス)、ハーバード大学、ケンブリッジ大学ペンブローク・カレッジとなっており、各大学に1人ずつが留学できます。留学に必要な渡航費、授業料等については、大学が支援します。

Q7：留学先の大学や学部、また、単位互換制度等について、ウェブサイト上にない情報などがありましたら教えてください。

A7：一橋大学海外派遣留学制度による派遣留学生が、留学先での様子などを書いた報告書が、本学の同窓会である如水会のウェブサイトに掲載されています。

如水会のウェブサイト：<https://www.josuikai.net/> トップページから「大学・学生支援」→「留学生レポート」に進んでください。

Q8：在学中に留学する場合、その間の授業料や出席日数についてはどのようになるのでしょうか。

A8：留学願による留学期間中は、学籍管理上、留学身分となります。一橋大学海外派遣留学制度により学生交流協定校へ派遣される場合などがこれに当てはまります。なお、留学身分では、留学中も授業料の支払義務があります。

授業の出席日数については、学期途中であれば受講日数不足になりますが、学期途中の例外的履修登録が認められる場合があります。また、単位互換制度により、留学先の大学で取得した単位が一橋大学の単位として認められる場合もあります。

Q9：留学しても4年間で大学を卒業することは可能でしょうか。

A9：ケース・バイ・ケースです。留学に当たっては、事前に指導教員や担当窓口とよく相談して、綿密な履修計画を立てていくことが大変重要です。

Q10：国際交流の面では何に力を注いでいますか。

A10：本学の学生に海外の大学で教育を受ける機会を供与し、日本や世界に貢献できる人材の育成に力を注ぐとともに、教育の更なる国際化を図り、本学の学生がより幅広い経験や視野、国際理解及び国際的人脈を得ることにより、自由で平和な政治経済社会の構築に資する知的、文化的資産を創造し、その指導的担い手となるよう育成することに力を入れています。

具体的には、1か月程度の研修から、1年程度の留学、大学院では学位取得を目指す長期の留学等、多様な留学の機会を提供しています。

Q11：外国人留学生と交流するような機会はありますか。

A11：学内には727人の外国人留学生がいますので、積極的に交流することを意識すれば、機会はたくさんありますし、国際交流を目的としたサークルも複数存在します。また、講義がすべて英語で行われる授業(Hitotsubashi University Global Education Program(HGP))には、特に交換留学生が多く履修していますので、これらの科目を履修することもよい機会になるかも知れません。さらに、本学の外国人留学生と日本人学生とが相互に語学を勉強しあうことを目的としたランゲージコミュニティ(LC)や外国人留学生と日本人学生が混住する大規模な国際寮である小平学生宿舎での学生宿舎チューター制度があります。学生宿舎チューター制度は、寮生及び寮に関するあらゆるサポートを、大学から選出された学生が住み込みで行うものです。その中で、国際寮の執行部としての役割を担っているのがレジデント・アシスタント(RA)、寮生の交流を現場で支援するのがコミュニティ・アシスタント(CA)であり、外国人留学生と日常生活を通して交流する機会が豊富にあります。

図書館について

Q1：一橋大学の図書館にはどのような本があるのですか。

A1：本学の図書館は、社会科学系の資料を中心に約195万冊の図書、16,800タイトルの雑誌を所蔵しています。その内の約110万冊は、自由に手に取って読むことができるフロアにあります。

また、本学では、専門資料が学部の資料室などに分散することなく図書館に集中して所蔵されていることも特徴の一つで、教員が使うような図書を利用して高度な研究をすることができます。

その他、歴代の教員旧蔵の個人文庫など貴重な資料を集めて特色ある蔵書を構成しており、電子ジャーナルなどの新しい形態の資料の収集にも努めています。

Q2：学部の学生は、どのようなサービスを受けることができますか。

A2：夏季や冬季の授業休業期間を除く授業期には、平日は22時まで、土・日・祝日は17時まで開館しています。開館日数は年間300日以上です。図書は、同時に8冊まで、2週間借りることができます。目的の図書や雑誌がどこに配置されているかは、図書館のウェブサイトからオンライン蔵書目録で調べることができます。

ヘルプデスクでは、図書を始めとする様々な資料に関する質問に答えたり、国内外の大学図書館等から本学にはない図書またはその必要部分のコピーを取り寄せたりするサービスを行っています。なお、これら取り寄せの申込みや、図書館で購入してもらいたい図書のリクエストは、インターネットを使って行うことができます。

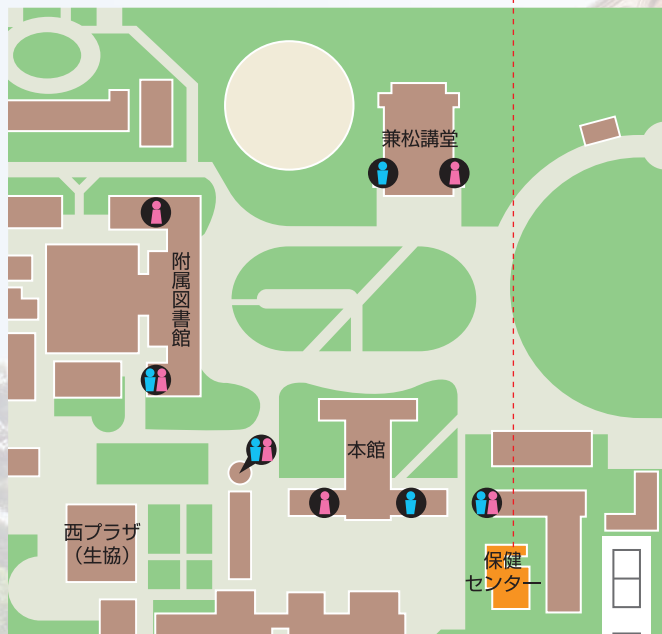
また、インターネット閲覧用のパソコンが用意されており、皆さんの持ち込んだノートパソコン等の端末をインターネットに繋ぐことのできる無線LAN環境も整備されています。その他、各種の情報をいかに入手・活用するか分かりやすく講習するガイダンスも開催しています。

《体調が悪くなった》場合は

気軽に **一橋大学** の腕章を着けた係の者にお申し出ください。
また、**保健センター**では、応急的な看護をいたしますので、
何かあった際には、ご遠慮なくお越しください。

保健センター

●西キャンパス



●東キャンパス



▲至国立駅

大学通り

至谷保駅

一橋大学 学務部 入試課

〒186-8601 東京都国立市中2-1 電話：042-580-8150 FAX:042-580-8158

ホームページ：<http://www.hit-u.ac.jp/admission/>